

日本女子大学の学寮における家具・什器一覧化と考察  
—明桂寮を対象として—

21818058 藤井 美羽  
指導教員 葉袋 奈美子 教授

木製家具 学校家具 歴史的家具  
女子教育 寮教育 昭和初期

1. 研究の背景と目的

家具というものは暮らす上で欠かせないものである。生活において最も身近にあり、デザイン性の優れたものから機能性に優れたものまで幅広く作られ、日々の生活を豊かにする。しかし歴史的に貴重な家具や大邸宅の立派な家具についての文献や既往研究はあるものの、日本の生活に近い家具の研究は少ない。特に流行や生活が西洋化していく段階にあった昭和初期・戦前という時代に注目された論文は少ない。また、本学科においても学寮の研究は数多くあるものの、家具の利用状況や現状把握を研究したものは無い。現在寮地区には5棟9寮が現存している。その中でも最も築年数が長い明桂寮は、昭和初期にあたる1927(昭和2)年に建設され、校内初のRC造の洋風寮として洋家具を建設当時より利用していた。以上のような状況を踏まえ、研究対象を本学の明桂寮とした。

本研究では明桂寮内の家具を清掃・撮影をし、配置状況・数量等を一覧化し、資料化を目指す。一覧化については同様の木製什器を対象として研究がされている、新井竜治・三島美佐子(2018)に記載のあった、『九州大学総合研究博物館所蔵・歴史的木製什器コレクション』記載項目(案)<sup>\*1</sup>を参考に筆者が作成した表にまとめる。また実際に明桂寮で使用されたものなのか、どのように使われていたのかについて当時の写真や資料から考察をし、製造元が分かる家具についてはヒアリング調査と資料から使用場所と年代を探る。

2. 実地調査の方法について

実地調査の方法は主に写真撮影と3Dスキャンによって行う。写真撮影は正面・右面・背面・左面・上面・裏

面・パースに加え、適宜詳細部分の撮影を行う。写真だけでは分からない家具の形状や寸法を得るため、またデジタルアーカイブのために3Dスキャンを2日間で行う。

3. 調査のまとめ

集計した結果、種類は33種、個数は約356個だと分かり、その全ての家具について、寸法・所在地・詳細情報・写真などをまとめて一覧化した。表1はその中から文献調査により明桂寮にて実際に使われていた家具だと確認ができたものについてまとめた。

学習机・箆筒上下・食堂机は開寮初期より使用が確認できた家具である。<sup>\*2,3</sup>つまり建物と同年代の歴史を持った家具であり、重要ではないかと考えられる。またその他5つの家具は40回生、42回生の在寮時の写真や、浅野久美(1990)<sup>\*4</sup>に写真があるため、使用が確認できたものである。製造元は大半が不明となってしまったが、唯一コトブキ椅子は判明したため、次項で詳細を述べる。

一覧化したその他の家具は明桂寮が開寮時より倉庫として使われてきた面からしても、他の場所から持ち込まれたものと考えられる。実際に文献調査から使用場所が分かったものや家具自体に寮名が書き込まれたものもあったため、その可能性が高いと言える。立派で状態の良い什器も数点あり、他寮の歴史的な家具の可能性もあるため今後も保存されるべきと考える。

4. コトブキ椅子について

前述した通り、コトブキ椅子が今回の調査で唯一製造元が分かった企業であり、ヒアリング調査・資料提供などご協力いただいたため中心的に考察を行う。

表1：過去文献等より明桂寮内での使用が確認できる家具

品名	学習机	箆筒上	箆筒下	食堂机	ベッド	ソファ	寮監室本棚	コトブキ椅子	正方形机
数量	15	49	47	7	38	2	1	52	6
場所	2-1,2-2,3-3,3-6, 地下脱衣所: 1 地下浴室,3-7: 3 2-6: 4	1-5, 3-4: 1 2-1: 7 2-6: 1 7 3-7: 2 3	3-4: 1 1-5: 2 2-1: 7 2-6: 1 4 3-7: 2 3	地下脱衣所、 地下浴室: 2 図書室: 3	2-2: 1 1-5, 2-1, 2-3, 2-6, 3-3, 3-4, 3-5, 3-6, 3-10, 3-11: 2 地下浴室: 4	2-6: 2	寮監室: 1	地下脱衣所: 2 地下浴室: 5 0	2-6, 3-7, 3-10, 3-11: 1 地下浴室: 2
寸法:mm	W: 816 D: 523 H: 727	W: 847 D: 299 H: 634	W: 849 D: 454 H: 1031	W: 1824 D: 665 H: 744	W: 910 D: 1933 H: 839	W: 980 D(座面): 527 H: 680	W: 624 D: 307 H: 901	W: 404 D(座面): 398 H: 767	W: 600 D: 600 H: 715
掲載元	家庭週報、過去写真	家庭週報、過去写真	家庭週報、過去写真	家庭週報	過去写真	過去写真	過去写真	過去写真	過去写真
写真									


#### 4-1. コトブキシーティング株式会社の概要について

「壽商店」(現コトブキシーティング株式会社)は1914(大正3)年に創業し、早稲田の大隈記念講堂などの教育関連施設、東京文化会館などの音楽ホール、東京ドームなどのスタジアムシートをはじめとした多種多様な製品を世に生み出している企業である。本校においても成瀬記念講堂の座席や香雪館の階段教室、学内の様々な机・椅子がコトブキ製である。

#### 4-2. コトブキ椅子について

明桂寮内に現存するコトブキ椅子は見た目や色合いが少しずつ違うものが3種あったため、それぞれを「コトブキ1」、「コトブキ2」、「コトブキ3」と分類し、表2に表した。それぞれを大きく見分ける際に基準としたのは、背もたれの形状が横長か・背もたれのパイプが取手の形状になっているか・プレートがついているか、の3点である。座面や背もたれにはウレタン材と綿が使用されており、クッション性が残っているものもある。この3つの椅子はコトブキ1が10脚、コトブキ2が2脚であるのに対して、コトブキ3は50脚と数量に大差がある。また、総数で62脚もありながら、地下の浴室や脱衣所にあり、地上階には1脚も置かれていなかった。

表2: コトブキ椅子比較

品名	コトブキ1(SP-1)	コトブキ2(SP-2)	コトブキ3(SP-2)
数量	10	2	50
寸法:mm	W: 401 D: 394 H: 733 SH: 418	W: 405 D: 397 H: 743 SH: 401	W: 404 D: 398 H: 767 SH: 426
写真			

#### 4-3. 明桂寮内での使用について

調査の結果、コトブキ2はいくつかの座面裏に「しほう」と書かれていたことから紫峰寮での使用が推測される。コトブキ1については潜心寮の居室・食堂での使用が、コトブキ3については精華・新泉・紫峰いずれかの食堂(1棟3寮でありどの寮か判別不可)での使用が成瀬記念館所蔵の写真より確認できた。さらに同様の椅子と思われるものが様々な資料より見つかった。<sup>※5,6,7,8</sup>一方で、浅野久美(1990)<sup>※4</sup>に掲載された明桂寮の電話スペースの写真にもコトブキ2が写っていたことから、明桂寮での使用も確認できた。以上のことから明桂寮内での使用が主体ではない可能性が高いものの、一定の期間は使われていたと考えられる。

#### 4-4. コトブキ椅子と本学との関連性

1953年、日本で初めて鋼製の椅子を大量生産化したのは寿商店であり<sup>※9</sup>、他社に先駆けて販売し始めた製品の内の1つがコトブキ椅子である。また、カタログに掲載された品番から、コトブキ1は「SP-1」、コトブキ2と3は

「SP-2」に分類されることが分かった。SP-2が初めて社内パンフレットに掲載されたのは1958年であり、記載されている社名は「壽商店」であった。<sup>※10</sup>その翌年には「寿商店」と記載されている<sup>※11</sup>ことから、この期間に社名表記が「壽」から「寿」へと変化していることが分かる。このことは各寮の写真に写る椅子のプレートからも分かる。1957年竣工の精華・新泉・紫峰寮の写真に写るSP-2は「壽商店」の文字であり、1960年竣工の潜心寮の写真に写るSP-1は「イスのコトブキ」の文字である。さらに社内誌の初掲載時期と照らし合わせると、どちらの寮も竣工直後から使用されていたと推測できる。

寿商店は1956年に日本で最初に研究を始めたFRP(ガラス繊維強化プラスチック)製品の大量生産に成功したことにより、その分野のトップメーカーとなったため鋼製製品は次第に社内から衰退していった。元より主力製品ではなかったコトブキ椅子は、コトブキシーティング株式会社の本社に於てもプレートの無いSP-1型一脚のみである。つまり、本学に現存する個体は明桂寮ほどでは無いにしても約60年の歴史を持った椅子であり、製造元にも現存しない「壽商店」プレート付きの椅子なのである。また長年地下で放置されてきたにも関わらず座面が裂けた椅子は一つも無く丈夫な椅子である。工業化製品としての椅子の歴史に記録すべき製品としても、貴重である。

#### 5. まとめ

明桂寮内の現存する家具を一覧化し、文献調査をした結果、建物と同年代の歴史を持つ家具があることが分かった。また他にも実際に使われていた家具が発見できた。多くの家具は他の場所から持ち込まれたものが多いが、他寮の歴史にとって重要な家具である可能性も考えられる。また、製造元が分からない家具が多い中、コトブキ椅子は製造元が判明し、コトブキ社の歴史と沿うような発見も確認できた。120年の歴史をもつ本学においては、今後も歴史的什器の存在や詳細な情報が分かる可能性もあるため保存、検証を続けるべきであろう。

#### 注釈

- 注1) 新井竜治・三島美佐子 「九州大学総合研究博物館所蔵・歴史的木製什器コレクションの価値と課題」九州大学総合研究博物館研究報告第15-16合併号 p.82 (2018)  
 注2) 桜楓会編集 『家庭週報』第751号 桜楓会発行 (1924)  
 注3) 成瀬記念館所蔵写真  
 注4) 浅野久美 「日本女子大学寮の現状と今後について」日本女子大学卒業論文 (1990)  
 注5) 日本女子大学 『写真が語る日本女子大学の100年そして21世紀をひらく』p.99 日本女子大学 (2004)  
 注6) 日本女子大学 『創立六十周年記念写真集日本女子大学』p.30 日本女子大学 (1961)  
 注7) 日本女子大学教育文化振興桜楓会 『写真で綴る桜楓会の100年』p.88, 91, 93, 95 日本女子大学教育文化振興桜楓会 (2004)  
 注8) 創立120周年記念出版編集委員会 『SPIRIT of JWU' sARCHITECTURE in 120 YEAR HISTORY 日本女子大学創立120周年記念』p.57 日本女子大学 (2021)  
 注9) コトブキグループ100周年誌編集プロジェクト 『コトブキ百年物語』コトブキホールディングス株式会社 (2013)  
 注10) パンフレット 株式会社寿商店 (1958)  
 注11) パンフレット 株式会社寿商店 (1959)